

授業科目	*在宅看護学実習(2021年度入学生)				単位	3		
履修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU31403J		
開講年次	3~4	開講時期	後期・前期	該当DP	DP2-1 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2			
担当教員	石井 美紀代、鹿毛 美香							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>実務家教員として、看護経験をもとに、在宅ケア特有の視点について教授する。</p> <p>在宅看護学実習は、既習の各看護学の知識、在宅看護学、在宅看護学演習で学んだことを基盤に、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、など多様な現場で実習し、疾病や障害を持ちながら在宅で療養者する人とその家族を支える地域包括ケアについて理解を深める。</p> <p>また、療養者に起きている問題を個人の問題としてでなく、社会問題と関連して看護問題を捉えていくことを目指す。</p>							
学生が達成すべき行動目標	看護学実習要項に準じる							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	70	10	0	20	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			15	5			20	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			5				5	
関心・意欲 (DP3-2)			10	5			15	
態度(DP4-1)						10	10	
態度(DP4-2)			15				15	
態度 (DP4-3)						5	5	
技能・表現 (DP5-1)						5	5	
技能・表現 (DP5-2)			25				25	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<p>標準的なレベルに加えて</p> <p>1. 在宅療養者とその家族の療養生活を支えるために全人的なアセスメントを行うことができる。</p> <p>2. 受け持ち療養者に必要な看護を自ら見出し、オリジナルの看護が提供できる。</p> <p>3. 地域包括ケアシステムにおける訪問看護の機能・役割が説明できる。</p> <p>4. 介護における社会の現状がとらえられ、在宅ケアの課題を見いだせる。</p>				<p>1. 教員や実習指導者の助言・指導を受けながら、受け持ち療養者を理解し、個別性のある看護過程が展開できる。</p> <p>2. 包括ケアの視点をもとに、療養者・家族の意思を尊重した看護を行うことができる。</p> <p>3. 訪問看護を通して、疾患や障害をもって在宅で生活するために必要な条件が考えられる。</p> <p>4. 他機関や多職種との連携・協働について説明できる。</p> <p>5. 在宅看護に携わる看護職者としての態度を養うことができる。</p>				
授業計画								

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>【訪問看護ステーション】</p> <p>療養者を1名受持ち、訪問看護師と同行訪問する中で看護過程を展開し、訪問看護師の指導の下、学生主体の看護を提供する。また、受け持ち療養者以外のお宅にも訪問看護師と同行訪問する。さらに、ケアマネジャーとの同行訪問や、通所サービス等に参加し、看護職以外の専門職の活動を学ぶ。</p> <p>これらの学びを、学生グループでディスカッションしながらまとめ、カンファレンスで発表する</p>	<p>同伴訪問</p> <p>個別面談</p> <p>グループディスカッション</p>	<p>看護過程の展開</p> <p>実習記録</p>	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				

20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	在宅看護の対象は、小児、成人、老年とすべてのライフステージにわたります。また、複数の疾患をお持ちの療養者が多く、回復期から終末期と多様な疾病の時期にあります。さらに、家族の形態も様々です。そのため、既習の看護の知識を活用できるように、準備してください。			
テキスト	各看護学領域の教科書を参考に、実習を展開する			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	適宜、紹介します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	家族機能の変化、少子高齢化、医療供給体制の変化、介護保険制度の改正、障害者福祉サービスの改正、などなど、在宅看護に関連することは、毎日のようにニュース等で報道されています。社会の問題を意識的に見聞きしてください。臨地で起きている問題を、個人レベルの問題なのか、社会レベルで考える問題なのかを判断してください。			
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	看護過程、指定された実習記録、最終レポートを評価の対象とします。看護過程では、指導者に質問し、助言を受けた内容を取り入れているかを含めて評価します。最終カンファレンスの資料も成果物として評価の対象とします。また、その他として、実習において療養者および家族に真摯に向き合ったか、グループでリーダーシップやメンバーシップがとられていたか、指導者やスタッフに積極的に報告・質問・相談をし助言を受けていたか、といった意欲や態度を評価します			

